

連体形に接続	体言・連体形 (連用形)接続	副詞の一部	ナリ活用形容動詞 の一部	ナ変動詞の 一部	体言・連体形に 接続	連用形に接続
<p>⑦ 接続助詞「に」</p> <p>連体形に接続。連体形との間に体言を補うと文意が通じない。「のに・ので・だが・ところ」などと訳することができる。</p>	<p>⑥ 格助詞「に」</p> <p>体言・連体形などに接続。動作の目的(「ために」)の意味の時だけ、連用形接続。連体形との間には体言「ところ、とき」を補っても不自然ではない。</p>	<p>⑤ 副詞の一部</p> <p>上の部分は体言ではなく、「に」と合わせて一語。「げに」「まことに」「さらに」など。</p>	<p>④ ナリ活用形容動詞 連用形活用語尾</p> <p>直前に状態や性質を表す言葉がある場合。また、語幹は独立させても主語にならないことが多く、上に副詞「いと」をつけても不自然でない。</p>	<p>③ ナ行変格活用動詞 連用形活用語尾</p> <p>「死」「往(去)」に続く。</p>	<p>② 断定の助動詞「なり」連用形</p> <p>体言・連体形に接続。下に「あり」「さむらひ」「侍り」などを伴うことが多い。 (「〜にや。」「〜にこそ。」「などの形で係助詞を伴い、結びが省略されていることもある。)</p>	<p>① 完了の助動詞「ぬ」連用形</p> <p>連用形に接続。「にき」「にけり」「にけむ」「にたり」など過去・完了の助動詞を伴う形が多い。 「ぬ」(「た・てしまふ、てしまった」と置き換えて文を終止できる。)</p>